

□会社訪問
太美工芸



スクリーン印刷機が稼働する工場

スクリーン印刷を 核とした特殊印刷加工

トップセールスの役割果たす 「ステッカー&スクリーン印刷 丸分かりBOOK」

太美工芸(株)(野田哲也社長)は、1977年に野田太志現会長が清須市で創業。その後、名古屋市西区中小田井に移転し今日に至っている。業務内容は、創業当初よりスクリーン印刷を核とした特殊印刷加工を行っており、製版から印刷、後加工、検品、出荷までの一連工程を自社内で完結し、特にステッカー・ラベル・マグネットシートなどの印刷を得意としている。また、オリジナル製品の販売にも力を入れAmazon、Yahoo、楽天に3店舗を持つ。また、環境活動への意識向上に努め、日産産連環境優良工場表彰の小規模事業所振興部門で奨励賞を受賞、さらに、地域社会との繋がりを重視し、工場を開放し職場体験学習など、積極姿勢を展開している。

営業活動のツール「ステッカー&スクリーン印刷 丸分かりBOOK」を片手に、さらなる飛躍を目指し活動する野田社長をお尋ねしお話を伺った(聞き手/本誌編集部)。

スクリーン印刷による ステッカー印刷を柱に展開

本誌 まず、業務内容についてお伺いします。

野田 屋外や長期間使われる印刷物が多く、主にステッカーなどを製作しています。具体的には、ステッカーが社内の印刷物の7割位で、材料の仕入れから印刷・加工を施し、ステッカーとして製品の仕上げまで行ない出荷しています。残りは、マグネットシートやプラスチックの板に対する印刷・加工、或いは名入れ印刷という、既製商品に社名などを入れる印刷をしています。また、オフセット印刷の後の追い刷りとして、特色やスクラッチの銀刷りなども行なっています。

本誌 社内の設備についてお聞かせください

野田 設備はスクリーン印刷の製版設備、スクリーン印刷機(菊全クラス)、ラミネーター、断裁機、スリッター、油圧型抜き機、カッティングプロッター、インクジェットプリンター(溶剤インク8色タイプ・UVインク6色タイプ)などです。

仕事の流れとしては、最初にデザインデータを貰い、印刷用にデータ加工を行なった後、製版・印刷を行ないます。ステッカーの場合は、ラミネート加工や型で抜くといった工程の全てを社内で一貫生産しています。また、小ロットの場合は、インクジェットのプリンターを使って製作しています。スクリーン印刷の版代が負担出来ないような小ロットのもの、あるいは、インクジェットの方が合っている印刷物については、インクジェットで印刷しています。比率としてはスクリーン印刷がまだまだ多いです。設備はそれぞれに対応できるように考慮して導入するようにしています。

本誌 インクジェットでしか出来ないものとは何ですか？

野田 手元で見ると、キメの細かい写真表現を求められる場合です。スクリーン印刷はオフセットよりも印刷線数が荒く、手元を見た場合には、網点が目で見えてしまいます。その様な場合はインクジェットで行なうことも提案しています。他は、可変情報など、中身が変わっていくもの場合はインクジェットで行なうなど使い分けしています。

本誌 増設など、今取り組んでみえることはありますか？

野田 生産設備は増やしていませんが、会社の作業環境の改善を行なっています。例えば、3年前にエアコンを全部入れ替えたことから始め、壁紙の張替えやトイレなども使いやすいように、1階2階とも改築して綺麗にしています。また、照明機器を全てLEDに替えました。工場内の作業現場に関しては、太陽光と同じというグレードの物に変更しました。そうしたことで、お客様の立会いの場合もどこで見ただけでも同じですので、安心して確認してもらえるようになりました。作業員も以前は太陽



野田哲也社長

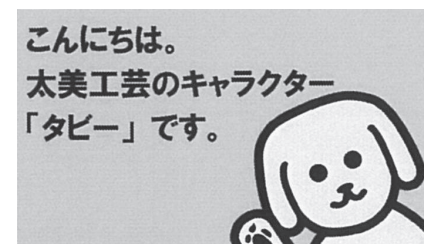
「地域に密着した企業として、環境問題や地元への貢献も大切な取り組みの一つだと思います。その活動の一環として、日産産連が行なっています環境優良工場表彰で、小規模事業所振興部門において日産産連奨励賞をいただきました。大変喜ばしいことであり励みにもなっています。また、地元への貢献活動としては、地元の中学生を対象に職場体験学習を行なっています。10年来行っており、印刷会社の見学と体験ができることとして喜ばれております。少しでも地元へ貢献できれば幸いです。」

光の下で見るとのが基本でしたので、その点においても、作業効率の向上と負担軽減に繋がっていると思います。

現在は、建物が30年以上経っていますので、当時から更新されていないキュービクルの入れ替えを行なっています。万一駄目になってしまった時、私たちは電気が使えないと何も生産出来ませんから、その対応からです。また、同様に生産設備に関しても、年数が経っているものも有ります。しかし、機械も新しい方が良いとは思いますが、機構的な部分は大きく変化していませんので、大事に使ってれば仕上がりも品質で問題になることも有りません。製品は、機械だけで決まるものではなく、機械、製版、インク、日常のメンテナンス、そして、何より使う人の技量だと考えています。

本誌 大切に使っているということですね。

野田 機械を入れ替えたから劇的に綺麗な物が上がるというものではないと思いますので、一度入れた機械は、大切に使うということをやっています。ただ、過去には壊れてから入れ替えたとい



太美工芸のキャラクター「タビー」



スリット・ラミネート加工

う苦い経験もありましたので、こうした不手際をなくすために、計画的に入れ替えが出来るように、入れ替えたい機械を書き出したり、知識を身に付けたり、メンテナンスについて学んだりしています。そうすることで機械を大切にしてくれています。いずれにしても、新しい機械を導入する時には、メーカーの方にメンテナンスなどのやり方を全員に説明してもらいます。例えば1人が使う機械だとしても、全員が知ることで知識不足を補い合うことが出来ますので、期待をしているところです。

本誌 「ステッカーの協力工場」とのお話がありましたが、もう少し具体的にお聞かせください。

野田 当社は、印刷業界の皆さんとの付き合いを創業当初から行なってきました。中でも、シール印刷会社さんとの付き合いが深いです。印刷会社やシール印刷会社さんが出来ないもの、例えば、糊付き材料への印刷加工や、長期・屋外・耐候・耐水仕様の印刷物といったものを当社が請け負って製作しています。発注にあたっては、自社で出来ない印刷加工を、自社と同じ感覚で手配できるように、対応を心がけています。ですから、自社の工場だと思っただけのような環境（納期・コスト・安心）を目指し、「協力工場」とさせていただいています。

スクリーン印刷の知識

1冊に凝縮した丸分かりBOOK

本誌 営業の一助に製作されたサンプル帳が好評と聞きましたが？

野田 具体的には、サンプル提供や試作対応、さ



インクジェットプリンター

らには、工場見学や勉強会といったことも行なっています。そうした対応の中で、発注していただくお客様に対して『ステッカー&スクリーン印刷 丸分かりBOOK』という印刷サンプルの入ったファイルを提供させていただいております。私が打ち合わせ現場にいなくても、お客様と印刷サンプルを見ながら話すことで、相談もしやすく理解が深まり、大変便利に活用できると好評を得ています。これは私が入社した時に、初めての試みとして20冊程作りお客様に配りました。今では200冊を超えるまでになり、重宝していただいています。

丸分かりBOOKは、ファイル形式にしてあります。それは、常に最新の情報と差し替えられるのと、それによる取引先とのコミュニケーションを図ることを目的にしております。取引先に1冊ずつ配布して手元においていただいていますので、家庭での置き薬ではありませんが、必要なときには取り出して確認をしてもらっています。疑問や相談が起きればメールや電話での対応もしています。

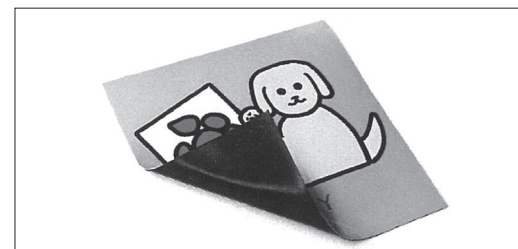
また、工場見学や勉強会向けに『ステッカーができるまで』という小冊子を作りしました。この小冊子は、オフセット印刷とスクリーン印刷における印刷方式の違いや特徴などが簡単に分かるように構成しています。これを作るきっかけとなったのは、美術系の大学生をインターンとして1ヶ月程受け入れた時に、私たちが普段出来ない印刷現場の作業風景の写真撮影や動画撮影、インタビューを行ない、一連の流れを資料にまとめるといったことからきています。最終的には、キャラクターも作り、ステッカー



オリジナル製品「必勝だるま色紙」合格・当選・勝利・切願など、「必勝」の文字が入った必勝だるま色紙。12色から選ぶことができる。



小冊子「ステッカーができるまで」ステッカーがどのようにできるのか、データ加工・フィルム作成→版の作成→スクリーン印刷→後加工仕上げ→検品・発送まで、写真と分かりやすい文章で構成されている。



マグネットシート印刷
取り付け、取り外しが簡単なマグネットシートは、自動車などの野外向けは勿論、PR告知などに使われるノベルティー向けも製作している。両面がマグネットの両面磁気タイプの印刷にも対応している。

を製作する流れをプレゼンが出来るくらいのレベルまでアップしています。現在の当社のオリジナルキャラクター「タビー」もそうですが、この小冊子もそれが元になり、改良を続け現在のものになっています。

オリジナル製品で アンテナを広げ可能性追求

本誌 オリジナル製品への対応も積極的と聞きましたが。

野田 オリジナル製品は、現在AmazonとYahooと楽天に店を持っています。きっかけは、5年位前に知人から「必勝」の文字を使って何か商品が出来ないかの相談を受け、全員でアイデアを出し合っていた時に、「だるまに必勝を入れたら面白いのではなか、ということで、色紙にだるまと必勝の文字

を組み合わせ印刷してみました。そして、知り合いの進学塾の先生に、「これを販売しようと思うのですが、いくらなら売れると思いますか、と相談したところ、先生曰く、「合格祈願の縁起担ぎで、1,555円にして『五を書く』ではどうだろう、ということ」で販売価格が決まり、知人のサイトに出品しました。その後、自社でもアマゾンに店を出してみようということで、色々教えてもらいながらスタートしました。それがオリジナル製品を作ったきっかけです。本業の仕事では、私が提案する立場になるのですが、オリジナル商品販売は、全く本業と違うことばかりなので、お客様、仕入先、友達でも私の周りの方から教えていただけます。本業だけでは入ってこなかった知識が、こうしたことを行なうことによって、周りの皆さんからほんとに沢山のことを学ぶことができます。現在では『必勝だるま色紙』の販売も順調で、その他のアイテムも色々増やしています。

本誌 いろいろな展開ができるようになった。

野田 そうです。今後も社内で作れる物で、いろいろな商品などを企画して出品していきたいと思っています。ネットに上げたから沢山売れるという訳ではありませんが、これをネタに皆さんからアイデアなどを教えていただき、他社の使える商材なども自社用で作ってみるなど、様々なことに広がっていきたいと思います。また、販売方法についても皆さんから質問やアドバイスをいただいています。貼り付け方が判らないという声には、取り扱い説明を動画にし

■ステッカー&スクリーン印刷 丸分かりBOOK

「屋外で使うステッカー」「長期間使う」
「色褪せに強いものを作る」などサンプル集

■白塩ビ

ステッカーとしては、一番ポピュラーな材料で、材料自体にもツヤ・ケシの両方があるが、通常はケシの材料を使用している。但し、ラミネート加工をする場合、ツヤもケシもラミネートの選択によって決まってしまう。地色のついた色塩ビや透明塩ビなどもある。

■ユポ（ユポタック）

非塩ビ素材な為、環境負荷が少ない材料として利用されている。合成紙とも呼ばれ、紙と書いていても紙ではなく、PP（ポリプロピレン）を主原料にしているので紙とプラスチックの長所を備えたプラスチックといえる。但し、貼り付け後に剥がす必要がある場合は選択を避けた方が無難で、ユポの構造自体が3層構造をとっている為、シート自体が脆くなり場合により層間剥離が発生してしまうこともある為である。

■ネーマー

PETのベース材料にアルミ蒸着がされており、剥離紙を剥がした糊面は銀色になっている。地色は金（青金・赤金）、銀、白（白コート）がある。その他に細かい引っ掻き傷をつけた金・銀色のヘアライン（HL）がある。また、それぞれの材料に対しツヤとケシがある。

■透明テトロン（PET）

透明材料では一番ポピュラーな材料で、透明を生かしたデザイン表現や裏貼り用ステッカーなどで利用する。

■裏面印刷（逆刷・両面）

絵柄を反転させて印刷することで裏面から貼り付けて見ることの出来るステッカーに仕上げる。裏印刷には大きく以下の3つの方法があり、デザイン内容や仕様などで使い分けている。①白印刷：透明部分を生かしたステッカー（デザインに透明部分が有るもの）②白押さえ：ステッカーに透明部分が無いステッカー（白ベタを全面に印刷する）③ユポ押さえ：ステッカーに透明部分が無いステッカー（ユポを全面に貼り合わせる）白押さえよりムラ無くきれいに仕上げる。

両面印刷には大きく以下の2つの方法があり、デザイン内容や仕様などで使い分けている。①印刷のみ：鏡像印刷した後、白+グレー+白と印刷し、さらに表面を印刷する。②貼合せ：鏡像印刷した後、白印刷+ユポなどで貼合せ、さらに表面を印刷する。

■反射材

表面に当たった光がガラスビーズの働きで光源に向かって反射するシートのこと、車の後ろなどに貼られているので、よく目にしていると思う。ガラスビーズが基材に練り込まれていたため、シート自体は脆かったが、最近ではPETを基材に使用しているものも出てきている。こちらは剥がす際にも剥がしやすくなっている。交通安全のステッカーや神社のお守りステッカーとしても利用されている。

■蛍光

いわゆる蛍光色のシートで、光ったりする訳ではないが、視認性が高いので目立つ。インパクトがほしい時に最適である。シート自体の屋外耐候性は、半年～1年程度と言われている。

■蓄光材料・蓄光インキ

太陽光や屋内の蛍光灯などの光を吸収し蓄光させ、夜間など暗くなると発光し、ぼんやり明るく光ったように見える。非常用の表示物などに利用されたり、スイッチなどに張られたりする。蓄光による表現方法。①蓄光素材で全体を光らせる事が出来る蓄光材料を利用したもの、②一般素材に蓄光インキで印刷し必要部分のみを光らせる、③一般素材に蓄光ラミネート材で加工し、全体を光らせるようにしたものの。

■サテン

サテン生地なので光沢感がある。それに糊がついたステッカー用素材で、衣服などに張り付けることが出来るので、イベントなどでスタッフ用にバックステージパスとして、参加者用にゼッケンとして、入場者用に入場証（チケット）などとして使用される。油性サインペンで文字を書き込むことも出来る。

■フロアステッカー

販促効果や誘導効果のあるフロア広告用のステッカーで、対象商品のそばに貼ることで、非常に大きな広告スペースも確保でき、注目度が上がる。また、案内・誘導サインとしても効果的に使用することが可能である。表面のラミネート材は、通常歩行に対して十分な耐久性や耐摩耗性を有している。また、店舗などの一般的な床材に対して剥がす際にも剥が



ステッカー&スクリーン印刷
丸分かりBOOK

しやすい糊を使用している（使用に関しては、屋内環境を想定している）。

■ホログラム

キラキラした目に留まる独特な風合いで、他のものと差別化が出来てアイキャッチ効果も高い。また、偽造防止のために用いることもある。

■マグネット

自動車などの車体や、看板、冷蔵庫などによく貼られるノベルティグッズなどなどよく目にする材料で、取り付け取り外しが簡単便利なのであらゆる場面で重宝されている。厚みは主に0.8mmと0.6mmがあり、屋外用では0.8mm厚を勧める。また、色つきのマグネットシートもある。（黄・赤・緑・青・黒・橙・蛍光色・反射材・蓄光材etc.）

でYouTubeにアップしました。更に、取り扱い説明の冊子を作り展開を広げています。動画や冊子もこうしたネット販売をしていなければ製作することもありませんが、ネット販売をしていたことで当社の得意先とも繋がりが出来て、対お客様としてだけでなく、お世話になっている方達に、僅かながらも恩返しに繋がったと感じています。

商売としてというよりも、自分のアンテナを広げ可能性を広げるために、このような試みが役に立っ

ていますし、楽しんでやっています。

奨励賞受賞で 環境活動への意識向上

本誌 環境問題で奨励賞を受賞されたそうですが、その点についてお聞かせください。

野田 弊社が移転してきた頃、周りは田んぼばかりありませんでしたが、今ではすっかり変わってしまいました。マンションや住宅などが多くなり、周辺

における工場は私共くらいになってしまいました。やりづらい部分も有りますが、この場所は、通勤がしやすいという交通の便利さも有りますし、お客様にも来ていただきやすいので、この場にいることを前提に考えています。その上で、周りからも良い会社だと思ってもらえるようにしなくてはいけないと環境には気を使っています。

ご指摘の賞は、日本印刷産業連合会が毎年行なっています印刷産業環境優良工場表彰で、小規模事業

所振興部門で奨励賞をいただいたものです。受賞理由としては、環境活動に努力を払うとともに改善が認められ、特に、その活動に特色があり、業種の特殊性や企業規模に鑑み今後のさらなる環境改善を期待する、というものでした。私共のような小規模業者が受賞できたことは大変喜ばしいことであり、励みにもなりました。またこうしたことを学ぶ機会を得たことで、環境に対して更に意識出来たことはとても良かったと考えています。

また、環境とは少し違いますが、地元の中学生の職場体験学習なども十数年来行なっています。今はお父さんやお母さんの仕事をしている姿を見たことの無いお子様が多いので、当社に来て体験をして自宅に帰り何をしたかという話をし、逆にお父さんお母さんの仕事の話聞いてみたりする事も勉強になると思います、職場体験学習を受け入れています。こうした活動も、少しは地元に貢献することになっているのではないかと考えています。

良い会社との評価

一つ一つ努力の積み重ね

本誌 企業の代表者として、仕事の楽しさ厳しさなどはどのように受け止められていますか？

野田 楽しいことしか無いと思うように考えています。色々で決断と行動をしなくてはいけないことが多いですが、こうではないか、と想像しながら、それに対して一つずつ手を打って行くということは醍醐味でもあると思います。先代が一生懸命やってきた中で、創業して20年、30年と続けてこれたのは、何か突き抜けていないと続きません。時には虚勢をはってでもやってこなければいけないこともあったと想像もつきます。

私が会社に戻って15年位ですが、これからの時代は、企業は“社会の公器、だということ意識しなければいけない、そう思いながら経営に関わってきました。尖っていなければいけないことも理解できますが、ここは良いけど、ここが駄目ということでは、会社を永続させる観点からみると、尖るだけが良いことでは無いと思います。悪いところは直していかなくてはなりません。その駄目な部分をどうすれば良くなるかということを考えながら、少しずつ丸に近づけていくのが、今の段階だと考えています。そしてまた尖る部分を作り、それを繰り返すことで、徐々にその丸を大きくしていきたいと考えています。

その走りが、受験生をターゲットにした寄せ書き用の「だるまの色紙」や「マグネット栞」など、ネットショップで販売しているオリジナル商品に繋がっていきます。これなどは“変わったことをしている、との話題づくりでもあり、取引先に興味を持ってもらい、本来の仕事に結びつけばいいとの考えです。



社屋外観

太美工芸(株)

野田哲也代表取締役社長

〒452-0822 名古屋市中区中小田井2-75-2

TEL : 052-503-3231 FAX : 052-503-8153

HP/URL : <https://taibi.co.jp>

“こんなもの作れないか、という程度で、気軽に何でも相談できる会社をターゲットに展開しております。

いずれにせよ、対外的にも社員からも“良い会社だ”といわれる会社にしていきたいと考えています。そうした思いを持ちながら全員が一丸となり、一つひとつの努力と変化のステップを歩んでいくこと自体が、私の『仕事の楽しさ』でもあります。

本誌 貴重なご意見をありがとうございました。